

FUREの5年半とこれから



初澤 敏生 氏

福島大学 うつくしまふくしま未来支援センター長
人間発達文化学類教授



2014年10月号以来2年間、22回にわたって連載させていただきました「福島に“ほんとの空”が戻る日まで」も今回で最終回を迎えます。長期にわたり誌面のご提供をいただきました経済同友会と読者の皆さまに、心よりお礼を申し上げます。

福島大学の被災者支援活動は震災直後から行われました。福島大学も避難所を開設し、原発周辺地域からの避難者を受け入れました。ご多分に漏れず、体育館に段ボールを敷いての対応でしたが、少しでも避難者の方にくつろいでいただけるよう、炊き出しなども行いました。避難所が閉鎖された後も、二次避難所や仮設住宅、あるいは大学を会場として子どもの学習支援などを行いました。

また、郡山市に設置した支援拠点では、避難者の命と生活を守るための活動を続けました。

これらの活動は規模を縮小し、形を変えながらも、今も続いています。

大学がその力を発揮したのはやはり研究面でした。原子力災害の実態を把握するためにガイガーカウンターを持って放射線量を測定して回り、結果を各自治体に提供して避難計画を作成するための参考にしていただきました。また、行政が十分な機能を発揮できない間にも、避難された双葉郡の全住民を対象としてアンケート調査を行い、その実態を把握しました。このほか、地域住民と

FUREの歩み

【2011年】

- 東日本大震災・福島第一原発事故発生(3月)
- 福島大学に避難所開設(3月)
- 放射線計測チーム活動開始(3月)
- 「うつくしまふくしま未来支援センター」設置(4月)
- 「福島大学放射線相談窓口」開設(6月)
- 世界へ元気を伝える笑顔のメッセージプロジェクト(7月)
- 文部科学副大臣が来学、「復興教育」意見交換(8月)
- シンポジウム「ふたばはひとつ～双葉地方のまちづくり・未来づくり」開催(10月)
- 福大まちづくりマルシェ主催による「復興マルシェ」開催(10月)
- 金澤翔子さん揮毫の書「共に生きる」受贈(10月)



郷土に想いをよせる同窓会事業(2014年8月)

【2012年】

- フォーラム「みんなで築く福島の再生～ふくしまの絆づくり・未来づくり～」開催(3月)
- 浪江高校でのキャリア教育支援開始(4月)
- 伊達市、大熊町で水稻試験栽培開始(5月)
- 「川内村 村民との交流のつどい」開催(6月)
- 「福島県内大学等復興支援センター連絡会議」開催(7月)
- いわき・双葉地域支援サテライトに駐在職員3名を配置(10月)
- 「郷土に想いをよせる『同窓会』浪江町の部」開催(10月)
- 「復興交通まちづくりワークショップinふくしま」開催(10月)
- 南相馬市でジャンボタクシーによる一時帰宅交通支援事業開始(10月)
- 「ふくしまの想いを届けよう! in文部科学省」開催(10月)
- 「郷土に想いをよせる『同窓会』川内村の部」開催(11月)
- 復興の担い手育成事業、放射線測定従事者研修会(第1回)開催(11月)
- 「ふくしま食と農の再生シンポジウム」開催(11月)
- シンポジウム「原発災害とコミュニティ

政策」開催(12月)

【2013年】

- 文部科学省において、企画展「今、ふくしまからはじめよう」開催(1月)
- キャリア教育シンポジウム「明日を拓く力」開催(1月)
- シンポジウム「ふくしま再生と歴史文化遺産」開催(2月)
- シンポジウム「福島教育復興へ向けて～福島未来を支える子ども達のために～」(共催)開催(3月)
- 被災文化財等の救護・修復活動に対し文化庁長官から感謝状受贈(3月)
- 大熊町においてイネと野菜の試験栽培を開始(4月)
- FURE棟完成(5月)
- 東京シンポジウム「企業・経済界は被災地の復興に何ができるのか」開催(9月)
- シンポジウム「生活再建の課題」開催(12月)

【2014年】

- 大阪シンポジウム「福島の『今』、そして『未来』へつなぐ」開催(3月)
- シンポジウム「福島復興の課題と研究者の役割」(共催)開催(3月)

協力しての農地の放射線量測定とその分布を示したマップの作成、商工業復興のための企業実態調査の実施なども行いました。大学の研究能力を活用して、地域の実態を把握することからFUREの活動が始まりました。

状況が一定程度落ち着きを取り戻すと、次に課題となったのは「地域をどのように復興していくか」ということでした。震災後の福島では、復興に関する計画の立案などをめぐっても、行政と住民との間で、あるいは住民同士で対立が起こることもまれではありませんでした。行政と住民が団結しなければ地域の復興はありません。FUREは専門家としてこれに関与し、地域をまとめていくと努めました。

避難指示が解除され、住民が戻り始めると、その地域に深く入り、積極的に支援することが必要になります。FUREではまず川内村、次いで楡葉町にサテライトを設置して職員を常駐させ、日常的な支援に当たっています。来年度はさらに南相馬市にも新サテライトを設置する予定です。

今年は熊本地震の支援活動も行いました。すでに七次にわたって職員を派遣し、支援活動に当たっています。これからは今までの活動から得られた経験をもと

に、他の被災地の支援や地域振興のための活動も進めていくことが求められることになるでしょう。まさに「未来支援」のための活動です。

このようにみていくと、時間の経過とともに新しい支援が求められるようになることが分かります。われわれはこれに応えるために不断に自己革新と努力を続けていきます。

福島の復興にはまだまだ時間がかかります。今後もご支援をいただければ幸いです。



シンポジウム「東日本大震災及び原発事故からの福島の闘い」(2015年3月)

2011年～2016年

- 地域住民および学内教職員・学生に向けた「センター活動報告会(第1回)」開催(5月)
- 全国教職員セミナーin福島「原子力災害からの復興に向けた協同の力」開催(9月)
- 経済同友会広報誌「経済同友」にFUREのコラム連載開始(10月)
- シンポジウム「被災地で考える若者のキャリア形成支援」開催(10月)
- ふくしまからはじめよう！ サミットin九州(共催)開催(12月)

【2015年】

- シンポジウム「みんなの故郷に想いをよせながら」開催(3月)



大学生ボランティアと共に活動する熊本地震対策チーム(2016年5月)

- 京都シンポジウム「東日本大震災及び原発事故からの福島の闘い」開催(3月)
- シンポジウム「原発事故4年目における風評被害の構造と食と農の再生」開催(3月)
- 国際シンポジウム「複合災害からの復興と災害復興学の確立」開催(3月)
- 福島めばえ助成金事業設置(5月)
- 楡葉町に「いわき・双葉地域支援サテライト」を設置(8月)
- シンポジウム「震災復興の今を考えるーこども・文化・心をつないで」(共催)開催(8月)
- シンポジウム「ふくしまの震災関連資料の保全と活用」開催(9月)



福島わらじまつり初参加「FUREマスコットキャラクター：めばえちゃん」(2016年8月)

- 震災遺産展「震災遺産とふくしまの記憶」開催(9月)
- シンポジウム「ふくしまの食品・農業・環境の未来を創る」開催(10月)
- 第10回マニフェスト大賞授賞式(優秀復興支援・防災対策賞を受賞)(11月)
- 東京シンポジウム「福島の復興と地方創生」開催(11月)

【2016年】

- 活動報告会「復興の中で考える若者のキャリア形成支援ー5年間の歩み」開催(2月)
- シンポジウム「教育の再生にむけて」開催(2月)
- 名古屋シンポジウム「震災・原発事故から5年を迎える福島を考える」開催(3月)
- 熊本地震対策チーム第1次～第7次派遣(4月～9月)
- 熊本地震対策チーム報告会(6月)
- ふくしま土壌ネットワーク「桃の力プロジェクト」の成果報告会(7月)
- 「防災リーダー育成プログラム」開始(7月)
- シンポジウム「ふくしま浜通り地方の復興・再生」開催(9月)

※このコーナーは、福島の被災者と被災地域の復旧・復興を科学的・学術的見地に基づき支援している福島大学「うつくしまふくしま未来支援センター(FURE)」のスタッフによる寄稿です。科学的データを基にした福島県の産業や環境の現状、FUREの取り組み、直面している課題などを、これまで22回にわたりお届けしてきました。